

みんなで考えよう ご機嫌な居場所を開催しました

令和6年7月27日(土)、生駒市こども政策課(セイセイビル3階)において、こどもの居場所を考えるこどものワークショップ「みんなで考えようご機嫌な居場所」を開催しました。

当日は天気にも恵まれ、明るい雰囲気の中、小学5年生から中学3年生までの5人が集まって「理想の居場所と過ごし方」について考えてくれました。



▲居場所カード

【このワークショップについて】

ワークショップに先立って、市内全小中学生に対して、居場所に関するアンケート調査(以下、「事前調査」。)を行いました。そのアンケートを深掘りすることを目的に、以下の通りワークショップを行いました。

- ①「居場所カード※」を組み合わせてワークシート上で自由に配置することで、理想の居場所を考えてもらう。

※事前アンケートの「放課後や休日に過ごす場所として、どのような場所に行きたいですか」という設問の選択肢をカード化(左の写真を参照)

※白紙のカードがあり、その居場所に欲しい要素を自由に付け加えることができる

- ②①の理想の居場所で、「どのように過ごすか」を考え、発表してもらう。

【こどもの権利の説明】

ワークに入る前に、こども政策課の職員からこどもの権利についての説明を行いました。戦争や犯罪から守られることや、色んなことを知り、考え、自由に表現できること、そして何より元気に、幸せに育つことはこどもの権利であること、そのための社会をつくるためにこども基本法が施行され、生駒市においてもこどもが幸せになる「こども計画」の策定を予定していること、計画の策定にあたってはみなさんの意見が必要であること、を説明し、ワークショップを始めました。

【個人ワーク】

個人ワークに入る前に、事前調査の結果(速報)について説明しました。この調査によると、放課後(学校が終わってから夕方 6 時くらいまで)に過ごすことが多い場所の第 1 位は「家」で、「家」と回答した人のうち96%が「楽しい」「まあまあ楽しい」と答えていることから、生駒市のこどもたちは放課後に家で過ごすことが多く、また楽しいと感じていることが分かりました。



一方で、放課後に過したい場所として、「ともだちがいる」という選択肢を選んでいる割合が一番多く、「家から出て過ごしたいと思える場所」が必要という説明をしました。

まずは、一人一人が自分の理想と考える居場所について考え、みんなに対して発表を行い、それに対して他の参加者の思ったことも含めてみんなで共有する時間としました。

その中で Wi-Fi や、飲食などしながらゆったりと過ごせる場所を求める声が多かったほか、静かに過ごせるエリアと楽しく過ごせるエリアははっきりと分けて欲しい、という声がありました。

また、「大人」の存在については、必要であるという声がある一方で、関わって欲しい時は関わってほしいが、関わって欲しくないときにはそっとしておいてほしい、という声もあったほか、監視するのではなく見守ってほしい、という意見や、こどもたちの中に溶け込むことで自然と関わっていくという「ゆるやかなつながり」を求める声もありました。



<個人ワークの主な意見>

- ・図書館では自習はできませんということが多い。
- ・自習室は有料が多い(と感じている)。
- ・自習するときには静かな環境が欲しい。うるさすぎるのはNG だけど友達同士で教え合うとかあってもいい。
- ・「今日は声を掛けしないでください」という札があってもいいかも。チロル堂の人はそのあたりの空気を読むのが上手。ちょっと暇だなと思った時に、「夏休みに営業が短くなる紙を書いて」と言ってくれた。大学生くらいの人かなと思う。
- ・学校は聞いてくれる人、分かってくれる人が少ない、先生だと言り返される。最後まで話を聞いてくれたら話しやすい。
- ・友達と話をしたりゲームができ、別の学校の人やいろんな人と知り合えたりするといい。
- ・大人には、積極的に来てくれると嬉しいが、来過ぎるといや。一人の時は来てほしいけど、関わってほしいときと、触れられたくないときがある。一人になりたいから来ている人もいる。
- ・あまり大きくない施設を考えた。大きい施設は生駒に一つしか作れないとなると、電車移動は大変。小さめでもいいので校区に一つくらいほしい。空き家をこどもの居場所に活用してはどうか。
- ・(こどもと関わるのが得意な大人は)大人と話している感じがしない。学童の先生はすごく上手。こども扱いしてきたり上から目線で指導されるといや。
- ・カフェみたいな飲食できる場所がいい(安い軽食がある)。

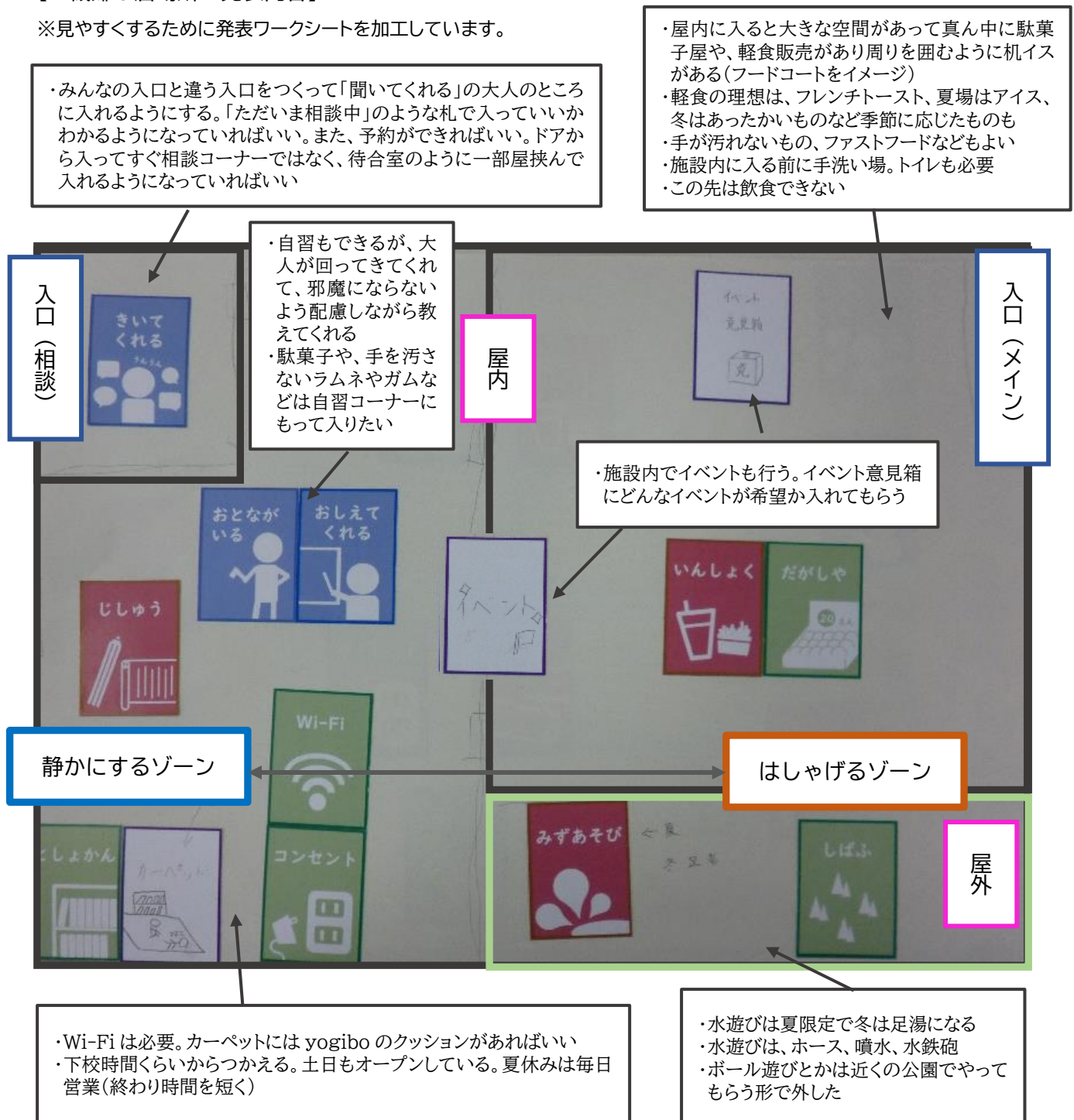
【グループワーク】

グループワークでは、先に考えたそれぞれの「理想の居場所」を持ち寄った上で、「なるべくたくさんの子どもが」「家からわざわざ行きたくなる」「長く過ごせる、何回でもいける」という条件のもと、多くの子どもたちが「ご機嫌になる居場所」について考えてもらいました。

いろんな意見が出て、活発なグループワークとなりました。限られた時の中で手分けをしながら作業を行い、5人で一つの「ご機嫌な居場所」を考えてくれました。

【ご機嫌な居場所の発表内容】

※見やすくするために発表ワークシートを加工しています。



【まとめ】

今回は 2 時間のワークショップで、参加してくれた子どもたちが活発に意見を発し、真剣に取り組んでくれました。

大人が「これでいいだろう」と思っていたことが、子どもからは「よくわからない、伝わっていない」など、子どもならではの視点や意見をいただき多くの学びや気づきを得ることが出来ました。(報告の本文に入らなかった内容については、後に「意見メモ」として記録してありますのでご覧ください)

令和 7 年度から開始する「生駒市子ども計画(仮)」の策定にあたり、参考とさせていただきます。

今後も、生駒市では子どもの意見表明の機会を作っていきたいと考えています。

引き続き、多くのかたのご意見をいただきたいと考えとともに、今回参加してくれたみなさんへ感謝の意を表明してこの報告の結びとします。ありがとうございました。

<発表を受けての気付き>

- ・「友達」は居場所にとって重要な要素。友達とワイワイしたい、色んな人と知り合いたい。
- ・「飲食」は居場所にとって重要な要素。飲食しながら友達とコミュニケーションがとりたい。勉強するときも軽食や飲み物、ガムなどがあればいい。
- ・自分たちでイベントの企画運営もできる機会がほしい。
- ・大人の存在も必要。考え方を押し付けたりすることなく、自然と関わってほしい。
- ・悩みを聞いてくれる人も欲しいが、一方で他の人に知られたくない。プライバシーも必要。
- ・自由に過ごしたいが、過度に自由に振舞われることも問題(静かにすべき場所でうるさいなど)。ゆるやかなルールなどがあることで心理的な安全性の確保にもつながる。



【ご機嫌な居場所を考えよう(意見メモ)】

【会話の中で】

- ・居場所のベストはチロル堂だと思う。チロル堂は(周りのこどもは)みんな行っている。
(校区の遠い参加者はちゃんと行ったことないとの発言あり)
- ・チロル堂は Wi-Fi がとんでいる(スイッチしてる)。
- ・生駒市にはイオンみたいなものがないので、大和郡山まで行っている。
- ・(生駒に)ポケモンセンターとか欲しい。
- ・(遊ぶところなど)生駒市内になにもない。
- ・趣味が共有できる場所があればいい。
- ・アントレなど駅周辺で過ごせたらいい(楽しく過ごせたというニュアンス)。
- ・一日遊びに行けるところが欲しい。
- ・生駒山上遊園地は意外に楽しいが移動が大変、楽しいけどもういいかなという感じ。
- ・ハシャギーノ(精華町の施設と思われる)とかも楽しい。

【ワークの中で】

- ・図書館では自習はできませんということが多い。
- ・自習室は有料が多い(と感じている)。
- ・カーペットは広々と(寝転んだりのんびり過ごす)。漫画とか置いてあるとよい。
- ・外ではスポーツ、しばふ、水遊び、ボール、飲食。遊んですぐに飲食したいので同じ場所に。
- ・静かにするゾーンとはしゃぐゾーンは分けたい。
- ・静かに自習ができる場所。チロル堂にも椅子はあるが、いっぱい座れない。
- ・図書館には漫画や受験に役立つものもあってよい。
- ・Wi-Fi とコンセントを入れることでタブレット学習にも対応。
- ・大人がいる、の人は聞いてくれる人ではなく管理してくれる人でうるさすぎる人に注意してくれる人。
- ・放課後は長く遊べないのでカラオケは2曲100円くらいに設定(フリータイムだと長く居過ぎてしまう)。
- ・駄菓子屋と飲食があり、100 円以上買ったならゲームができるとかもいい。
- ・お金を払ったらスポーツとカラオケは行き来できる。
- ・スポッチャ的な要素がほしい。スポッチャは他にないものがある(カラオケやスポーツ以外の)他のものもあるとうれしい。
- ・相談室が必要。スクールカウンセラー的な人が欲しい。
- ・学校のスクールカウンセラーはハードル高く利用しにくい。学校の中でその部屋に行くのは勇気がいる。
また、どうやったらスクールカウンセラーに会えるのかわからない。いついるかもよくわからない。案内があるかもしれないが注意して見ないとわからない。
- ・芝生はこけても痛くない(おばあちゃんの家が芝生)泥(土)は汚くなることもある(傷口)。
- ・図書館のように、本があるだけでも来る人がいるのではないか。
- ・みんなとゲームしたりすると楽しいかも。
- ・自習と図書館は扉で分ける。似ている雰囲気だけど分けた方がいいかなと思った。
- ・飲食とコンセントはセットにした(フードコートによくついているので)飲食している間に充電できる。
- ・イベント会場は毎月内容を変えて楽しめるようにする。

- 夏祭りとか、スタンプラリー、冬まつりとか企画運営はこどもでやりたい。
- アンケートボックスを作って置いてもいい。
- ・中央に大きなソファがあれば疲れても座れる。
- ・入口の近くに駄菓子屋があれば行きやすい。駄菓子屋は人が集まって賑やかないい雰囲気になる。
- ・受付は管理するために大人がいる。
- ・中と外の公園がある。外に出たらボール遊びや水遊びができる。雨でも遊べるように中にも落ちにくい滑り台とかあればいい。外には雲梯やジャングルジムがほしい。
- ・漫画喫茶は楽しいが、大人と一緒にないとだめで、潰れていったところもある。子ども用もあつたらうれしい(最新の漫画がおいてある)。
- ・学生やこどもが中心となってつくる、空き家を活用した居場所。
- ・こども若者世代を中心に大人は見守り+とけこんで一緒に遊ぶ。みまもる大人とこどもがゆるやかにいる。
- ・高校生や大学生はボランティア募集もあるが、中学生ができるボランティアは少ない。
- ・駄菓子屋、飲食(カフェ)を地域の人おじいちゃんおばあちゃんやボランティアが運営する。
- ・自習室は机といすがあって、静かに自習する(教えてくれる大人は大学生くらい)。
- ・大人は溶け込むことが大事。監視ではなく見守ってほしい。
- ・こどもと関わるのが得意な大人の人たちと関わるがあった。
 - 団体の人や施設の人、研修を受けたプロ、空気を読める。話していて、大人と話をしている感じがしない。話を広げてくれる。
- ・くつを脱いでくつろげる場所がいい。
- ・駄菓子屋は小学生向け、カフェは中高生向けのイメージ(オランダ屋、サンマルクカフェ)。
- ・スタバは大人向けのイメージがある(近くはない。サンマルクはある)。
- ・クラスでスタバの新作がでたら行く子たちもいる(校区にあるので)。
- ・カウンセラーなどに話を聞いてもらえる場所は、後ろから入れるように入口を別に。